

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年3月27日

事業所名 ぱすてる

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	3		活動の内容により手狭と感じる場合もあるが可能な範囲で工夫し適切に過ごせるよう努めている。
	2	職員の配置数は適切である	9	1		送迎業務で現場から職員が離れることは課題。運転業務専門職員を新たに1名求人中。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	4	リスク面に配慮し、段差等は最小限になる環境整備を随時している。	借家物件であり、自由に改築することが難しい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	2		PDCAサイクルが定着するよう働きかけが来ている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	3		結果はHP上で公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	9		法人として検討していく予定。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	1		全職員が法人内部研修に参加し自己啓発の機会を持た。他事業所体験研修や外部研修へも参加を促進している。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	4	基本的なツールは整っている。	新しくサポートブックの作成・活用に向け、独自ツールを活用予定。

適切な支援の提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	2	偏りがないう担当を輪番制にしている。	年間スケジュールとして活動を立案し、現場の意見を取り入れ改善に努めている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	1		児童から希望聴取し、現状や実態に即したものとなるよう話し合う機会を設けている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8	2		前期・後期で目標内容について話し合い、内容を吟味し目標設定し、日々の記録用紙に示している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	2		毎月の活動スケジュールを主軸にその日の状況に応じて実施に努めている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	5		時間差のある職員もいる状況だが、話し合いや伝達事項の申し送りが随時でき、事業所共有ノートやスマホツールで情報周知に努めている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	10			
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	1	今年度は更に児童さんのことを理解するため職員が交替で出席するよう努めている。	継続実施。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	9	1		事前の情報収集、情報共有できる仕組みがある。急な変更はスマホツールでタイムリーな情報共有が出来ている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	7	3		該当児童なし。 必要時には対応する準備はある。

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	9	1		情報収集に努めている。環境を知る為、相互の見学も行なっている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	9	1		小学部中心の事業所の為、卒業を機に福祉サービスへ移られる方は少ないが、対象の方について随時で情報提供している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	3	今年度は強度行動障害支援について外部講師を招き研修実施(全職員参加)	外部研修参加等、継続実施。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	10			
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	9		今後の必要性を踏まえ、次年度は情報収集を始める。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	7	日々の様子をお伝えする際に成功例も含め助言できている。	計画的に形にしていこうということを今後は検討する必要があると感じる。
保護者への説明	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	2	契約時にお伝えしている。	契約更新の都度、説明させて頂くようにする。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	6	年5回の親子行事の中で、保護者間交流の時間を設けることを継続して取り組んでいる。	事業所独自での保護者会等は現在なし。親子行事は継続実施。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	1		発生した場合には丁寧な聴き取りを心がけている。対応策を決め職員間で共有し、保護者へお伝えできている。法人内のフロー、外部発信の仕組みも整っている。

切 責 任 等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10			
	35	個人情報に十分注意している	10			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	5	法人としてサマーフェスタや作品展等の行事がある。ステージ発表や制作物の販売等、地域の方とふれあいの場がある。	事業所独自のイベントを開催予定。
非 常 時 等 の 対 応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	2		該当児童なし。 安全管理委員会での決定を受け、必要に応じ児童・保護者と話し合い計画に記載する流れ。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	1	回覧印を押し周知漏れの無いようにしている。	ファイルの在処等、周知説明し、内部の情報共有を密にする。